

研究員の眼

外国株式の長期保有が増加？

～2025 年8月の投信動向～

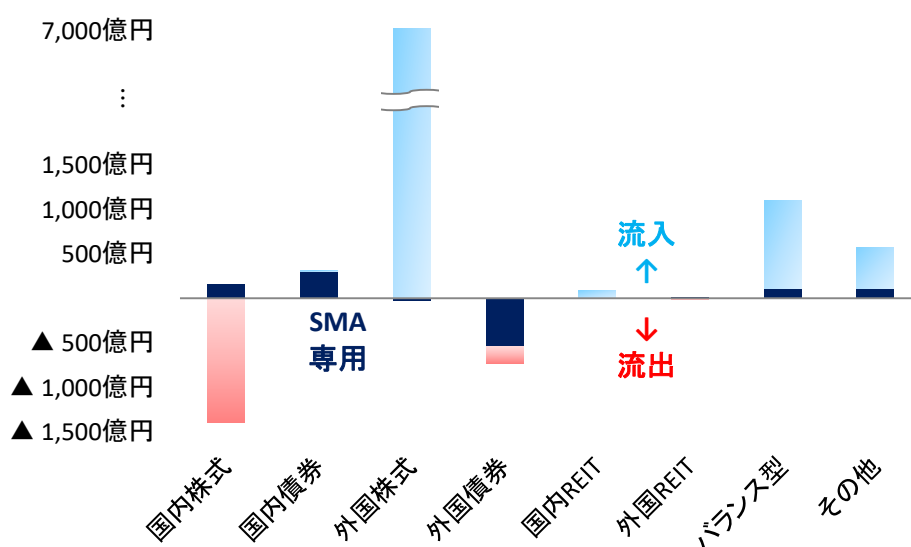
金融研究部 主任研究員 前山 裕亮
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

外国株式ファンドへの資金流入が回復

2025 年8月の日本籍追加型株式投信（ETFを除く。以降、ファンドと表記）の推計資金流出入を見ると、8月は外国株式ファンドに7,000億円の資金流入があった【図表1】。外国株式ファンドへの流入額は1月の1兆9,700億円をピークに減少が続き、7月には4,200億円と新NISAが開始された2024年以降で最小を記録していたが、8月は7カ月ぶりに反転した形である。

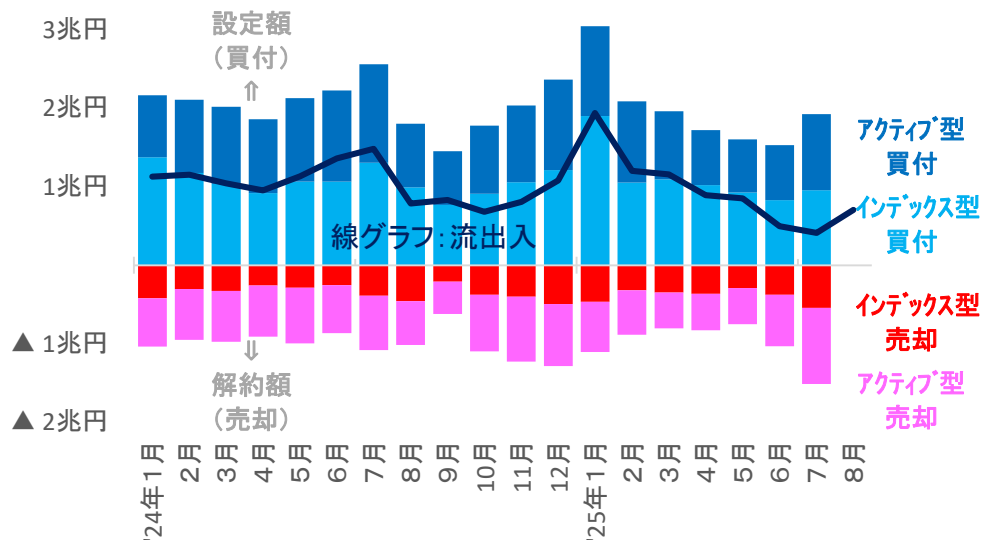
一般販売されている外国株式ファンドをタイプ別に見ると、インデックス型には5,300億円と7月の4,100億円から増加した。2024年と比べて見ても、2024年の8月、9月、10月とほぼ同規模まで回復した。さらにアクティブ型は7月に100億円未満の流出超過であったが、8月に再び1,700億円の資金流入に転じた。

【図表1】 2025 年8月の日本籍追加型株式投信（除くETF）の推計資金流出入



（資料）Morningstar Direct より作成。各資産クラスはイボットソン分類などを用いてファンドを分類。

【図表2】一般販売されている外国株式ファンドの設定額と解約額の推移



(資料) Morningstar Direct より作成。SMA 専用ファンドは除外、2025 年8月は流入の推計値のみ。

売却の減少は一時的か？

これまで外国株式ファンドは2月以降、インデックス型、アクティブ型ともに買付が減少し、それに伴って資金流入も鈍化していた【図表2】。ただ、この7月はタイプによらず買付が増加していた。その一方で売却が一般販売されているインデックス型で5,400億円、アクティブ型で9,700億円と、いずれも過去最大と膨らんだ結果、資金流入の減少が止まらなかった。あくまでも詳細情報の公表を待つ必要があるが、8月は買付が堅調だった上に売却が減少したため資金流入が増加したものと推察される。

ただし、8月は単に利益確定の売却が出にくかっただけの可能性もある。7月と同様に米国株式の主要指数が史上最高値を更新するなど世界的に株価は上昇したが、過熱感も意識されたこともあり上昇は小幅にとどまった。加えて、月初に1ドル149円を上回っていたのが月末に147円を下回るなど、月を通じてやや円高が進行したことで、多くの外国株式ファンドの基準価額は横ばいでの推移となったためである。実際に8月に資金流入が大きかった外国株式ファンド（赤字）を見ても、8本中6本で8月の収益率が1%以内であった【図表3】。つまり、今後の市場環境次第では外国株式ファンドで再び売却が膨らみ、再び資金流入が減少するかもしれない。

【図表3】2025 年8月の推計純流入ランキング

	ファンド名	運用会社 (略称)	7月の 流入	8月の推計 純流入	純資産 8月末時点	8月の 収益率
1位	eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	三菱UAM	1,521億円	1,685億円	7兆0.876億円	0.9 %
2位	インベスコ 世界厳選株式オープン(為替ヘッジなし)(毎月決算型)	インベスコ	1,499億円	1,595億円	2兆5,204億円	0.2 %
3位	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	三菱UAM	918億円	1,134億円	8兆1,486億円	0.6 %
4位	フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド D(毎月・予想分配・ヘッジ無)	フィデリティ投信	472億円	574億円	3,925億円	1.9 %
5位	ビクテ・ゴールド(為替ヘッジなし)	ビクテ	383億円	304億円	4,335億円	1.7 %
6位	iFreeNEXT FANG+インデックス	大和AM	171億円	299億円	7,505億円	0.7 %
7位	インベスコ 世界厳選株式オープン(為替ヘッジなし)(年1回決算型)	インベスコ	268億円	287億円	3,190億円	0.2 %
8位	東京海上・宇宙関連株式ファンド(為替ヘッジなし)	東京海上AM	228億円	211億円	2,255億円	0.2 %
9位	WCM 世界成長株厳選ファンド(予想分配金提示型)	朝日ライフAM	165億円	187億円	662億円	2.3 %
10位	ROBOPROファンド	SBI岡三	216億円	180億円	1,064億円	0.2 %

(資料) Morningstar Direct より作成。SMA、DC 専用ファンドは除く。

それでも外国株式ファンドの売却はごく一部

なお、このように外国株式ファンドの売却が7月に過去最大を記録した背景には、外国株式ファンドの残高が大規模な資金流入に伴い急激に増加していることが考えられる。ただ、残高ほどは売却が増えておらず、外国株式ファンド全体でみるとインデックス型、アクティブ型問わず、長期保有する人が増えている可能性が高い。

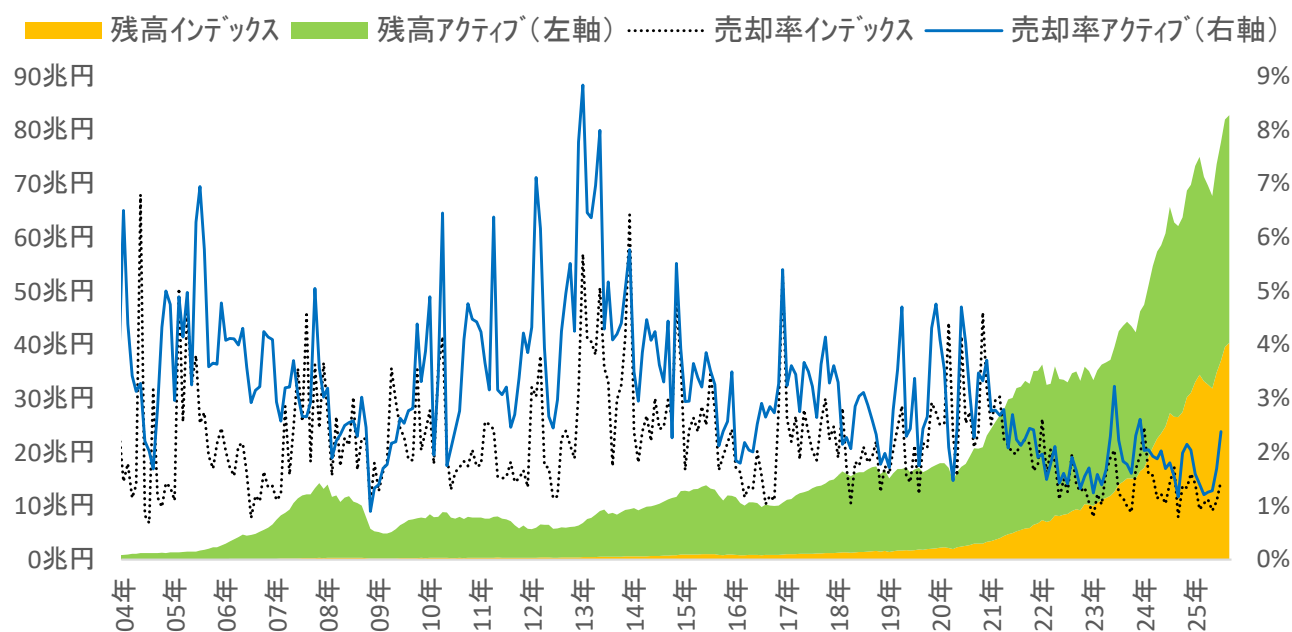
実際に一般販売されている外国株式ファンドの純資産総額（面グラフ）は、2025年8月末に83兆円に達している【図表4】。20兆円を超えたのが2020年8月であったため、この5年で4倍になった計算になる。5年累積で38兆円の資金流入があり、さらに基準価額の上昇も上乗せされた結果といえる。特にインデックス型（黄色面）は、純資産総額が5年前に3兆円に満たなかったが、足元では40兆円を超えており顕著であった。2025年中にはアクティブ型を上回りそうな勢いである。

ここでインデックス型とアクティブ型それぞれで毎月の売却率（線グラフ）を単純に「当月の解約額」を「前月末の純資産総額」で算出してみた。金融庁が投信の回転売買を問題視した2013年には、アクティブ型で売却率が5%を超える月もあった。それが足元では、過去最大となった2025年7月でも、売却率がインデックス型で1%台、アクティブ型で2%台となっている。2020年以前と比べると低水準で収まっており、純資産総額が急増した割には売却が出ていないことが分かる。

8月はファンド全体でも流入急増

外国株式ファンド以外では、バランス型ファンドでも8月に1,100億円の資金流入があり、7月の700億円から増加した。また、国内株式ファンドは8月も流出超過であったが、8月の流出額は1,200億円と7月の2,400億円から減少した。そのため、ファンド全体で見ても8月は7,100億円の資金流入と7月の2,700億円から急増した。

【図表4】一般販売されている外国株式ファンドの純資産総額と売却率の推移



（資料）Morningstar Direct より作成。SMA 専用ファンドは除外、売却率は「当月の解約額」/「前月末の純資産総額」で算出。

中国株式ファンドの一部が好調

8月も、高パフォーマンスをあげる中国株式ファンド（赤太字）があった【図表5】。ただ、中国株式ファンド自体は2021年7月以降、資金流出が続いており、この8月も20億円と少額ではあるが流出超過であった。

【図表5】2025年8月の高パフォーマンス・ランキング

	ファンド名	運用会社 (略称)	8月の 収益率	過去1年 収益率	純資産 8月末時点
1位	東洋・中国A株ファンド「創新」2021(限定追加型)	SOMPO	32.3 %	73.1 %	34 億円
2位	深セン・イノベーション株式ファンド(1年決算型)	アモーヴァ	22.6 %	75.2 %	207 億円
3位	ブラックロック・ゴールド・メタル・オープンAコース	ブラックロック	15.6 %	53.1 %	76 億円
4位	日興AM中国A株ファンド	アモーヴァ	14.9 %	51.6 %	20 億円
5位	日興AM中国A株ファンド2	アモーヴァ	14.9 %	51.5 %	16 億円
6位	ブラックロック・ゴールド・メタル・オープンBコース	ブラックロック	14.5 %	59.9 %	183 億円
7位	ブラックロック・ゴールド・ファンド	ブラックロック	14.4 %	59.3 %	237 億円
8位	ドナルド・スミス米国ディープバリュー株式ファンド Aコース(為替ヘッジあり)	三井住友DS	13.3 %	14.1 %	71 億円
9位	テーマレバレッジ ゲーム&eスポーツ2倍	大和AM	13.2 %	131.1 %	18 億円
10位	日本株厳選ファンド・ブラジルリアルコース	三井住友DS	12.2 %	36.2 %	123 億円

(資料) Morningstar Direct より作成。2025年8月末残高が10億円以上のETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

本資料記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と完全性を保証するものではありません。
また、本資料は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。